

日本女性会議さの 2019 開催に向けて

Towards the Japan Women's Conference 2019 in Sano

秋山 真奈美

Manami Akiyama ※¹

立川 聡子

Satoko Tachikawa ※²

Abstract:

The purpose of this paper is to concisely present an outline of the Japan Women's Conference, which has gone on once every year since 1984. Furthermore, we give a report of the most recent meeting in Kanazawa, in which we took part. In conclusion, we discuss what we should do to make progress steadily and serviceably in the next Japan Women's Conference in 2019 in Sano, where we will be working. There are many important elements to this event, but what we hope most is that many young persons will take interest in this project and actively participate.

キーワード:

日本女性会議、金沢大会、佐野大会、キャリア形成、学生指導

I. はじめに

本稿で紹介する「日本女性会議」(以下「本会議」)が発足されて35年が経つ。2019年度の開催地は稿者らの所属する短期大学(以下「本学」)が所在する佐野市で開催されることが決定しており、分科会会場として本学は使用される予定である。本学は1990年の開学時点では女子大学であったこともあり、1996年に共学化した後も、2018年4月現在でも女子学生の比率が94%に達していて、常態的に女子学生の割合が高い構成となっている。全国から参集する会議参加者を迎えるための心構えを用意し、また何よりこれからの社会を担う若者たちが自分たちの生き方を真摯に考える契機として、次回大会が活かされるよう、(男子学生を含む)学生たちをはじめとする学内外の若者に本会議の主旨を知らしめたいというのが稿者らの願いである。

そこで本稿を用い、先ずは本会議の概略を紹介する。続いて稿者らが参加した「日本女性会議 2018 in 金沢」(以下「金沢大会」)の概要について報告する。そして最後に、次回大会である「日本女性会議 2019 さの」において期待したいこと、配慮したいことに対し、稿者間で議論しまとめたものを申し述べる。なお、稿者らは共に次回大会の運営委員であるが、本稿に関する文責は全て、佐野市運営委員会ではなく稿者らに帰すものである。

II. 「日本女性会議」とは：発足の経緯と意義

1975年の「国際婦人年」・「国際婦人年世界会議」から“国連婦人の10年”を経て、1984年、愛知県名古屋市において初の「日本女性会議」が開催された。以来毎年、開催自治体が運営委員会を立ち上げて主催し、内閣府男女共同参画局、文部科学省、厚生

※¹ 佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科

※² 佐野日本大学短期大学 総合キャリア教育学科

Sano Nihon University College Associate Professor

Sano Nihon University College Professor

Table1: 日本女性会議の大会開催地とテーマの一覧

回数	開催年	開催地	開催道府県	テーマ
1	1984	名古屋	愛知県	語り合い、考えあい
2	1985	川崎市	神奈川県	かわさき女性フォーラム'85
3	1986	川崎市	神奈川県	かわさきフォーラム'86
4	1987	山形市	山形県	あなたの生き方みえてますか
5	1988	北九州市	福岡県	21世紀の世界をひらく女性立つWOMEN PREVIEW 21
6	1989	那覇市	沖縄県	女性が創造する平和
7	1990	高松市	香川県	快適に働き快適に生きる
8	1991	藤沢市	神奈川県	かがやけ地球女と男で: 共生・活力・創造を求めて
9	1992	長野市	長野県	豊かに拓こう地球時代: 男女共生のあしたをめざして
10	1993	福岡市	福岡県	風は西からいま行動のとき
11	1994	和歌山市	和歌山県	時間を翔るひとたちへ
12	1995	新潟市	新潟県	ともにつくる社会ひろがれウィメンズパワー
13	1996	宇都宮市	栃木県	さあ世界へともに歩き出そう
14	1997	岡山市	岡山県	自分らしく生きられる社会に!
15	1998	尼崎市	兵庫県	「個」と「個」で紡ごう共生社会
16	1999	浜松市	静岡県	21世紀へのプレリュード奏でよう自分らしく
17	2000	津市	三重県	そうや! 女も男もおんなじ人間やんか: 男女共同参画社会の実現のために
18	2001	水戸市	茨城県	世紀を拓こうあなたと偲に
19	2002	青森市	青森県	私は私を大切に思うのと同じ重さであなたを大切に思う
20	2003	大津市	滋賀県	いのちの世紀 びわ湖で輝け女と男
21	2004	松山市	愛媛県	集い、語り、ともに開こう! 新たな関係
22	2005	福井市	福井県	女と男が創る豊かな未来ともに語ろう不死鳥の郷土で
23	2006	下関市	山口県	We are ~わからないから信じあう。知らないから支え合う。
24	2007	広島市	広島県	一人ひとり響き合って いま そして未来へ
25	2008	富山市	富山県	煌く人とひと、連なる峰々へ
26	2009	堺市	島根県	山の動く日きたる: ジェンダー平等の宇宙へ
27	2010	京都市	京都府	ひとりひとりが輝く 色彩あふれる世界へ
28	2011	松江市	島根県	語ろう・紡ごう・“だんだん”の縁(えにし)を世界へ
29	2012	仙台市	宮城県	きめる、うごく、東北(ここ)から
30	2013	阿南市	徳島県	いきいきわくわく小さなまちから新たなステージ!
31	2014	札幌市	北海道	未来の景色は、わたしたちが変える
32	2015	倉敷市	岡山県	思いやり男女(ひと)が集う白壁のまち: ライフステージとそれぞれの男女共同参画
33	2016	秋田市	秋田県	見つめて、みとめて、あなたと私: 多様性(ダイバーシティ)とは
34	2017	苫小牧市	北海道	北の大地で語ろう これからの未来の一步を
35	2018	金沢市	石川県	たたえようこれまでの道、彩ろう未知なる明日
36	2019	佐野市	栃木県	ようこそ! 「人生100年時代」さあ、共に語り、絆結ぼう
37	2020	刈谷市	愛知県	未定
38	2021	甲府市	山梨県	未定

労働省、地域の議会・教育委員会・医師会・大学、地元メディア他、各種市民団体が後援している。これまでの開催自治体と大会テーマの一覧を Table 1 に示す。^{注1)}

そもそも本会議は、参加者間の交流を通じて女性問題・男女共生問題に関わる情報を交換・共有し、社会の意識を啓発することを目的に開始された。吉田(2015)が分析するように、当初より政策・制度・法律・条約への関心喚起に重点が置かれており、官民が協働・連携しながら政策形成の能力を高めていくことを推進している。このため、毎年内閣府男女共同参画局長が基調報告を行うとともに、基調講演や分科会においては、専門領域の研究者だけでなく、芸能人を含めた著名人が講師・情報提供者として招聘され、広く聴講者が集まり活発な議論が行われるよう、工夫が為されている。

分科会は、唯一設定されなかった第3回大会を除き、例年4～16の機会が設けられ、第1回～第35回大会の分科会設営平均値は9.1である。第35回金沢大会までに分科会で取り上げられた内容を、吉田(2015)の資料と近年の大会資料を基にまとめたのが、Table 2 である。なお、カテゴライズにあたっては原則として大会主催側が大テーマとして掲げた標記(「福祉」や「働き方」など)を基にしたが、一部概念に対しては、本会議の方向性の明確化を企図して、稿者2名で討議を行い、類似概念をまとめた。例えばジェンダー論、セクシャリティ、女性学、女性史、性、女性(の活躍)、男性、セクシャルマイノリティは、すべて「ジェンダー」とした。さらに計数にあたっては、例えば「家族と健康」(第3回川崎大会)というように1つの会場テーマに複数のカテゴリーが盛

Table2: 日本女性会議における分科会テーマの設定回数順位(第1～35回大会)

順位	分科会テーマ	備考	回数
1	労働・働き方・ワークライフバランス		30
2	国際交流・国際関係	国際社会・国際理解を含む	29
3	ジェンダー	ジェンダー論・セクシャリティ・女性学・女性史・性・女性(の活躍)・男性・セクシャルマイノリティを含む	21
4	高齢者・高齢社会		18.5
5	被害者保護・DV・ハラスメント		17.5
6	教育	キャリア教育を含む	17
	政治・行政・政策・地方自治	政治参画	
8	環境		14
9	保育・保育政策・子育て		13
	農業・農林水産		
11	福祉・社会補償		12
12	メディア・情報		11
13	保健・医療		10.5
14	地域	地域史・地域作り・まち作りを含む	10
15	人権・人権政策		9
16	国土・防災		8.5
17	歴史・文化		8
18	家族		7.5
	栄養・健康・食育		
20	法律・法務・法政策	家族法を含む	6.5
21	青年・若者		4
	科学		
	貧困・格差		
24	ライフコース・ライフキャリア		3.5
25	消費・経済		2.5
26	人口政策		2
	公民連携	公民協働を含む	
	経営		
	平和	平和運動史を含む	
30	多様性	ダイバーシティを含む	1.5
31	エネルギー		1
	コミュニケーション		
	居場所作り		

り込まれている場合は「家族」に 0.5、「健康」に 0.5 と数値を分割し、また同一大会の複数会場で同カテゴリーが扱われている場合（例えば第 33 回秋田大会で「女性の活躍」が 2 会場でテーマとして扱われている事例や、第 20 回大津大会での「ジェンダー論」と「女性史」が別々に開設されている事例）は、複数事例として算出した。その結果、扱われたテーマとしては、①労働・働き方・ワークライフバランス（30 回）、②国際交流・国際関係（29 回）、③ジェンダー（21 回）、

④高齢者・高齢社会（18.5 回）、⑤被害者保護（17.5 回）が多く、これらのテーマが聴講者の関心を強く誘うものとして運営側に認知されていることが知れた。またテーマとして選定された内容には、時代性や折節の世情が反映されている。例えば「被害者保護（DV・ハラスメントを含む）」がほぼ毎年扱われるようになったのは 1996 年の第 14 回岡山大会以降であるが、世間一般におけるこの問題への関心の高まりが、2001 年の「配偶者からの暴力の防止及び被害者の

Table3：金沢大会における分科会の内容等一覧

分科会	テーマ	内容	出演者	形式	定員	申込者数
分科会 1	【防災・まちづくり】 一人ひとりが大切にされる 防災・減災のまちづくりをめざして～かけがえのない“いのち”に寄り添う～	災害は社会の脆弱な部分に集中的に被害をもたらします。災害時要配慮者をめぐる諸課題の中には、自然災害のたびに繰り返されているものが少なくありません。わが国が災害大国であることを踏まえれば、対策は待たないでです。金沢コミュニティ防災士を中心とした地域レベルの具体的な取り組みを手掛かりに、被害の平等性の克服に向け、過去の災害の教訓を平時の地域コミュニティに組み込むための可能性と住民中心のまちづくりにについて考えます。	講師・コーディネーター 田中 純一 北陸学院大学教授 パネリスト 浦野 愛 NPO法人レスキュー・ストックヤード常務理事 パネリスト 花岡 咲子 金沢市長土堀自主防災会 パネリスト 竹田 雅子 金沢市三馬地区防災士会	パネルディスカッション	150	151
分科会 2	【国際理解】 多様な人と文化の共生をめざして～歴史都市金沢の国際化の現状と課題～	歴史都市として知られる金沢は外国人観光客にも人気です。外国人住民も増えています。この街は近年、多様な言語・民族・宗教の人々が行き交い、ともに暮らす街へと急速な変化をとげています。しかし、街も住民達の多くも、まだその変化について行っていないとも言えません。伝統的な暮らしの良さを活かしつつ多様性に対応していくためには何が求められるのか、様々な立場から金沢で活動してきたパネリストの経験と共有しながら、会場の皆さんと一緒に考えます。	コーディネーター 岸田 由美 金沢大学理工研究域准教授 パネリスト 田中 尚人 アドビネスセンター理事長 柳川 秀子 日本語学習支援ボランティア パネリスト ヒクマルレバード 金沢大学留学生支援地域アドバイザー	パネルディスカッション	90	92
分科会 3	【政治への参画】 議会の景色を変えてみよう～2019年統一地方選 変えるのは、今！～	5月23日 政治分野における男女共同参画推進法成立。女性議員は国会のみならず、県市町のどの議会においても相変わらず少数派。なぜ、女性たちは政治の世界から遠いのでしょうか。石川県内議会では子ども議会開催が活発で、議員構成は男女半々。子どもが描く議会の景色は、すでに男女共同参画社会です。前尾崎市長の体験や女性議員比率が4割を超える小金井市議会・島本町議会の活動、そして地元金沢市議会の現状から、一人ひとりの「できる!」を探り、行動の一步を持ち帰りましょう。	講師・パネリスト 白井 文 前尾崎市長 パネリスト 吹春 やすたか 小金井市議会議員 パネリスト 戸田 靖子 大阪府島本町議会議員 パネリスト 久保 洋子 金沢市議会議員 進行 常光 利恵 石川県各種女性団体連絡協議会会長	ミニ講演・パネルディスカッション	198	142
分科会 4	【働き方】 日本のこれまでの労働環境を女性が変える、女性も変わる～皆が幸せになれる働き方への転換～	「女性活躍」が叫ばれる中で、ジェンダーギャップ指数は毎年 最低を更新し続け、働く女性の7割以上は管理職への昇任を望まないというデータが出るなど、依然として女性の活躍は進んでいないのが現状です。企業と女性がともに成長し、働きやすい職場を作っていくためには何が必要か、また、女性自身の決意と覚悟を促すために何ができるかを考えます。	コーディネーター 宮原 淳二 ㈱東レ経営研究所ダイバーシティ&ワークライフバランス推進部長 講師・パネリスト 大槻 親巳 聖心女子大学人間関係学科教授 パネリスト 近藤 宣之 ㈱日本レーザー代表取締役会長 パネリスト 高 由紀 エキスパート・フラップ㈱代表取締役	ミニ講演・パネルディスカッション	344	231
分科会 5	【貧困と子どもの権利】 学ぼう! 子どもの今と未来について! ～子どもの豊かな成長を保障するために～	子どもの豊かな成長を阻害する要因として、今、貧困の問題が大きくクローズアップされています。貧困によって子どもの学び・進学・成人後の就労などが大きく影響を受けますが、子どもの権利保障の観点から言えば、子どもの育つ権利をはしめとする諸権利が保障されない状況といえます。貧困によって、子どもは学力や生活（食料・衣服）のみならず、将来への希望、あるいは自己肯定感を失ってしまうところにこの問題の深刻さがあります。今回は、子どもの権利保障の観点から子どもの貧困問題を考えてみます。	コーディネーター 荒牧 重人 山梨学院大学教授 パネリスト 明橋 大二 真生会富山病院心療内科部長 パネリスト 多田 元 NPO法人子どもセンターパオ理事長 パネリスト 荘保 共子 NPO法人こどもの里理事長	パネルディスカッション	600	235
分科会 6	【医療における性差】 健康寿命延伸における性差を考える～男女のプレコンセプションケア（妊娠前ケア）から医療介護力まで～	人口減少をたどる中、人生100年時代が到来。世界に類を見ない少子超高齢化時代を乗り越えるための課題が山積み、どのように解決していくか世界が注視しています。ウィメンズヘルス、メンズヘルスの性差の視点で生物学的特性を理解し、より良い医療・看護・介護を学び、健康寿命延伸の実現の為に知恵を得ましょう。	講師 対馬 ルリ子 NPO法人女性医療ネットワーク代表 講師 堀江 重郎 日本メンズヘルス学会理事長 日本抗加齢医学会理事長 パネリスト 赤澤 純代 金沢医科大学病院 女性総合医療センター副センター長 パネリスト 久藤 妙子 全国介護政治連盟会長 社会福祉法人篤堂会理事長	ミニ講演・パネルディスカッション	196	189
分科会 7	【DV・ハラスメント】 #Me Tooから#We Tooへ わたしたちはもう我慢しない～すべての暴力にNO! 意識レベルからの変革と行動、「これから」をつくらう～	弱者に対する暴力、DV、ハラスメント、性暴力、虐待はなぜなかなかないのでしょうか。声を上げにくい社会の問題は何なのでしょう。「わたしたちはもう我慢しない」と声を上げた人々を孤立させない社会と意識レベルからの変革のために再度課題を探り、解決につなげる行動を起こしましょう。男女平等社会実現のための「これから」を一緒に考えます。	講師・コーディネーター 上野 千鶴子 NPO法人ウィメンズアクションネットワーク理事長 パネリスト 牟田 和恵 社会学者・大阪大学大学院 人間科学研究科教授 パネリスト 小酒部 さやか NPO法人マタハラNet創設者 ㈱natural rights代表取締役 パネリスト 伊藤 詩織 ジャーナリスト	ミニ講演・パネルディスカッション	590	233
分科会 8	【農林水産】 みんなで、元気に暮らそう! ～里・山・海の恵みを未来に～	農業の大規模化を推進する「攻めの農業」や、食の安全や地域の暮らしを守る力には「兼業農家」との声の中、日本一小さい専業農家「風来」の、ゆとりの生活を楽しむつ、仕事としての農業の無限の可能性をお聞きします。そして、奥能登で地域農業のリーダーとしての女性の活躍、森づくりを自分事として感じてほしいと林業女子会の活動、水産業における女性達の新たな取り組みなどを通して、里・山・海の恵みを未来につなぎ、いのちをはぐくみ続けるために、今、私たちができることを共に考えます。	講師・パネリスト 林 浩陽 ㈱林農産代表取締役社長(野々市市) パネリスト 西中 宏美 西中農園代表(能登町) パネリスト 砂山 亜紀子 もりらバー林業女子会@石川 代表 (金沢市) パネリスト 藤田 寿代 JF石川七鹿支所参事(七尾市) 進行 南川 美恵 農山漁村女性応援団(白山市)	ミニ講演・パネルディスカッション	144	111
分科会 9	【性の多様性】 LGBT/SOGI (ソジ) いま求められていること～一人ひとりと私らしく生きられる社会を～	男女共同参画基本計画では、2010年の第3次計画から、性的指向・性自認(SOGI)を理由とする困難への取り組みが明記されています。この分科会では各自治体での取り組みの実情と課題を知るとともに、当事者のかえる困難について、これから男女共同参画にどう位置づけ、一人ひとりがどのように関わっていくことができるのかを考えます。	コーディネーター 谷口 洋幸 金沢大学国際基幹教育院准教授 パネリスト 中村 吉基 日本キリスト教団教師 パネリスト 若本 健良 金沢大学人文学部准教授 パネリスト 矢野 恵美 琉球大学法科大学院教授 パネリスト 佐藤 美和 お茶の水女子大学ジェンダー研究所研究員	パネルディスカッション	120	108

注) 申込者数は最終決定前の値である。

注) 「内容」は大会運営委員会の広示をそのまま掲載した。

保護に関する法律」制定（及び 2004 年、2008 年、2014 年の改訂：「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」：通称「DV 防止法」）に同期・反映されていると考えてよいだろう。

このように日本女性会議は、時代の抱える関心や問題意識が顕在化し共有される場であり、日本全国の自治体で持ち回り開催されることで、一般市民への啓発活動としての役割をも担っている。様々な立場からの意見が各種企画の場で提供・交換されることによって、参加者の思考体系が前進・深化し、より多くの人材、ひいては社会全体の意識が止揚されることが期待されているのである。

Ⅲ. 「日本女性会議 2018 in 金沢」その概要紹介

稿者らも参加した金沢大会は、2018 年 10 月 12 日（金）から 14 日（日）までの 3 日間、石川県金沢市で開催された。金沢大会では、「たたえようこれまでの道彩ろう未知なる明日」を大会テーマに掲げ、全国から約 2000 人の参加者が集い、活発な討議、情報交換、交流が行われた。

金沢大会 1 日目は、金沢歌舞伎座ホールを会場に開会アトラクション（13:00 ～ 13:10）から始まり、金沢素囃子保存会“杵望会”による伝統芸能の粋を極めた演奏で、華やかな幕開けを演出した。

開会式（13:10 ～ 13:30）では、副大会長神谷ますみ氏による開会宣言、大会長である金沢市長山野之義氏及び実行委員長八重澤美知子氏による主催者挨拶に続いて、金沢知事谷本正憲氏及び金沢市議会議長清水邦彦氏より祝辞が述べられた。

基調報告（13:30 ～ 14:00）では、「フェアネスの高い社会の構築に向けて」と題し、内閣府男女共同参画局長池永肇恵氏よりフェアネスを廻る課題と展望について報告

がなされた。親の介護で離職するのは 7 割が女性であるという現状が示されるなどの問題提起がなされた一方、女性が役員を務める企業の好調などが紹介され、女性が男性同様に能力を発揮できる社会の実現に向けて、施策に取り組んでいると結んだ。

分科会（15:00 ～ 17:00）は各会場に分かれ、分科会 1「防災・まちづくり」、分科会 2「国際理解」、分科会 3「政治への参画」、分科会 4「働き方」、分科会 5「貧困と子どもの権利」、分科会 6「医療における性差」、分科会 7「DV・ハラスメント」、分科会 8「農林水産」、分科会 9「性の多様性」、以上 9 つのテーマについて、それぞれの会場においてパネルディスカッション形式で熱心な討議が行われた。分科会のテーマ、内容、出演者、形式、定員、申込者数の一覧を Table3 に示す。

交流会（18:00 ～ 19:30）は、金沢東急ホテルにおいて開催され、前年度開催地挨拶を北海道苫小牧市、次年度開催地 PR を栃木県佐野市のそれぞれの担当者が行った。会場は 550 名を超える参加者が男女共同参画の活動を通じた情報交換、交流の機会を共有できる場として、大いに賑わった。メニューについては地元の産物を豊富に取り入れ趣向を凝らした金沢の味（海の幸を使った刺身・手鞠寿司、金沢おでん、金沢カレー、加賀野菜てんぷらなど）が振る舞われた。また、アトラクションでは、地元民謡の普及と後継者育成活動を行っている金沢市民謡協会が出演し、全国からの参加者をもてなし、交流の場を盛り上げる一役を担った。今回企画の取扱業者である JTB に寄せられた申込者数の最終確定前のデータによると、会場の収容人数の制約が参加人数を制限せざるを得なかったため、キャンセル待ちは 194 名に上ったという。

その他、同日に市内を巡るエクスカージョン 3 コースが設けられた。



Figure 1: 閉会式の様子：金沢大会から佐野大会へのバトンパス

金沢大会2日目は、再び金沢歌舞伎座ホールを会場とした。記念講演(9:30～10:45)の「能の道を歩む～私の生きがい～」は、冒頭に宝生流能楽師松田若子氏による能、宝生流仕舞「船弁慶 後シテ」が披露された後に同氏による講演へと続いた。松田氏は男性が尊ばれる能楽の世界で、女性ならではの苦悩の中から自ら進むべき道を模索してきた。同氏のこれまでの人生とこれからの人生についての語りは、静かに聴衆の共感を誘った。

分科会報告(11:00～11:30)では、前日の討議の成果が分科会ごとに代表者によって報告された。金沢大会の分科会設営は、全て同時開催(単回)であったので、参加できなかった分科会の討議の経過を聴く機会にもなっていた。活発な討議の様子や、有意義な意見交換が繰り返された様子が窺い知れる報告であった。

アトラクション(13:00～13:20)における創部87年を迎える遊学館高等学校吹奏楽部の演奏は、若さに溢れ、美しく躍動感に満ちたパフォーマンスに会場は魅了された。

記念シンポジウム(13:30～15:30)「これ

からの生き方・働き方のカタチ～『結婚』の選択肢が不人気なわけ～」は、総合内科専門医・作家のおおたわ史絵氏が講師・シンポジストとして講演を行った。タイムリーな社会問題である医学部入試での女子合格者抑制について、自身の入試の時代にも世間的には同様の事態が存在した認識があったこと、医学生時代も医師になってからも医学界では女性が必ずしも歓迎されていないことを思い知らされた体験があったことを語ったが、女性医師には不向きとされる仕事でも女性という性に囚われずに医師としてできることに挑戦している生き方に聴衆は励まされた。シンポジストの塩谷マスキューダ氏は、「インドとは違い日本の女性は社会で活躍をしていない。もっとアピールしていきましょう」と会場にエールを送った。また同じくシンポジストの鈴木規秀氏は、育児を応援するボス「育ボス」として、職場環境を整えるべく情報共有を図るために「育ボス企業同盟」を組織し、女性の活躍を期待して活動していることを報告した。

閉会式(15:30～16:00)では、次年度開催地の栃木県佐野市からメッセージが送られた(Figure1)。

最後に、大会宣言「日本女性会議 2018in 金沢大会宣言」を採択し、参加者全員で確認した。

日本女性会議 2018 in 金沢大会宣言

一、私たちは、強い意志を持ち、これからも継続して男女共同参画の実現に向けてあらゆる課題に取り組めます。

一、次の時代を生きる若い世代の一人ひとりが、個人として尊重され、その才能を十分に発揮できる地域づくり、社会づくりに取り組めます。

一、SDGs^{注2)} 目標5「ジェンダーの平等」を絶えず意識し、女性を取り巻く世界の動きと連動し、身近な課題にも情熱をもって取り組めます。

その他、2日目にもエクスカッション1コースが設けられた。

第1～2日目を通して、メイン会場である金沢歌舞伎座の2階大集会室に物産展会場が開設され、石川県下の25店舗、及び石川県観光物産館より10店舗が出店した。石川県内の海の幸、和菓子などの食品が22店舗、伝統工芸品など食品以外の13店舗が並び、土産を求めて多くの参加者が来場した。

金沢大会3日目は、エクスカッションのみのプログラムとなり、4コースが設けられた。

以上、金沢大会の概要を述べたが、開催には実に多くの協賛、協力関係団体、そして250名を超えるボランティアスタッフの協力があり、実行委員会及び関係者方々の想いが結実した大会となったと言えよう。金沢市長は開会式の主催者挨拶の折に、金沢大会開催の実現に向けて10年前から地道に活動してこられた方々を紹介した。金沢大会関係者各位のご尽力の軌跡を一般に公

開されている資料（主に、金沢市人権女性政策推進課が発行する機関誌「るうぷ」及び金沢市ホームページ参照：詳細は引用・参照文献参照）から辿ると、次のようになる。

2015年、日本女性会議を金沢へ誘致するための活動を行う市民活動グループ「日本女性会議を金沢でひらく会」が始動した。同年9月14日（月）に金沢市長より「日本女性会議を金沢でひらく会」のメンバーに「2018年度日本女性会議金沢開催の決定」が報告された。同年10月9日（金）から11日（日）に、関係者が「日本女性会議2015 倉敷」に参加した。

2016年8月25日（木）に「日本女性会議2018 in 金沢実行委員会」が発足した。当日は設立総会に続き、第1回実行委員会会議が開催され、本格的な活動が開始された。同年10月28日（金）から30日（日）に「日本女性会議2016 秋田」に実行委員会委員が参加し、金沢市PRブースにて、2018年度金沢開催のPRを行った。また「大会シンボルマークの募集」を開始した。同年12月22日（木）に審査（「日本女性会議2018 in 金沢大会参加受付・宿泊等手配業務委託 公募型プロポーザル」）した結果、株式会社JTB 中部金沢支店が選定された。

2017年3月末、大会シンボルマークが決定した。作品名は「よりあうかたち」、作者は野田悟史氏（千葉県）である。これは糸が縋りあって紐になるイメージを、金沢を象徴する鼓門の形状に重ね合わせデザインしているものである。同年5月12日（金）に「2017年度第1回日本女性会議2018 in 金沢実行委員会」を開催した。同年6月30日（金）に審査（「日本女性会議2018 in 金沢大会会場設営・運営等業務委託 公募型プロポーザル」）の結果、株式会社ケー・シー・エスが選定された。同年11月25日（土）、プレイベントを開催し、シンボルマーク表彰式、「日本女性会議2018 in 金沢」概

要説明、講談師日向ひまわり氏による講演会「寄席園芸『講談』の世界に入って」が行われた。

2018年6月15日(金)～8月31日(金)の期間において、参加申込が受け付けられた。

そして2018年10月12日(金)～14日(日)、「日本女性会議2018 in 金沢」が開催されたのである。

IV. 「日本女性会議2019 さの」に向けて

金沢大会に参加して稿者らがまず感じたのが、本会議が啓蒙と意識共有を何より重んじているということである。会場には多くの実績、キャリア、経験を有する人材が集結していたが、継続的に参加している人たちはもちろんのこと、初めて参加した人たちも、即座に提供される話題の内容を了解し、自由且つ真摯な意見交換ができる土壌が形成されていた。直近の会議での決議事項や話題が直接的に引き継がれているという手応えは然程強くはなかったが、これは今後の開催地が3年前には決定し、テーマや企画の検討がその段階から始まって、直前の会議が開催される時点では既に方向性などがある程度定まっているということも影響している可能性がある。然るに、それ以上に本会議で扱われるテーマや現象が、問題として実社会に根深く蔓延っており、社会の意識を変容させるのに相応の時間を要するというのが現実であるために、本会議は繰り返し、何度でも問題の在る位置に立ち戻り、1人でも多くの現実社会に生きる人の意識に対し問題提起ができるよう、倦まず弛まず活動を継続してきたのではあるまいか。これは決して本会議における問題解決の速度に難があることを意味しない。むしろ、それだけ深刻な問題に対し目を逸らさずに取り組んできたが故の結果であろう。いずれにせよ議場では活発な議論が展開され、特に初学者ほど強い印象を持って

帰途に着くのではないかと思われた次第である。

それ故に、稿者らは次代を担う若者にこそ本会議への参加を期待する。多くの人の体験や意見に触れ、それらを材料として自己の思念を何度でも練り直し、自分がどのように生きていきたいか、どんな社会を作っていきたいかを考える機会にして欲しいと念ずる。会場内ではあらゆる世代のあらゆる背景を持つ参加者が、活発な議論を展開する。冷静で論理的な議論は政治家や研究者などの特定の職務層の専売特許ではなく、万人のものであるということを、さらに年齢を問わず理想を追求する姿勢の美しさというものを、若者にはこれを機会に目の当たりにし、自身の生き方に取り入れてもらいたい。

最後に、地域性について触れたいと思う。今回大会の開催地金沢は云わずと知れた伝統芸能都市であるが、オープニングから講演に至るまで持続的に伝統文化が披露され、大会に華と感銘を与えてくれていた。これまでのいずれの大会においても、その土地の独自の文化が紹介され、この趣向も参加者のちょっとした楽しみのひとつとなっていると思われる。この機会に、栃木県の地方都市、佐野の文化が全国に周知され、地域挙げてのあたたかいもてなしで、来場者の記憶に好ましい痕跡を残せることを願って已まない。複数の過去大会の参加者データを参照するにつけ、実は栃木県からは常態的に本会議参加者が多く、次回大会においても、研修の機会を重んじる県下参加者の来場が、通常以上に増加することが見込まれる。佐野市民のみならず栃木県民が、活発な議論を交わし、力を合わせて大会の成功を導き、新生年号初の大会を、万人共生社会の明るい門出にしたいものである。

以上、本稿はいったんここで筆を置き、次稿にて、稿者らが教員としての立場から

若者（主として学生）に対してどのような働きかけを行ったのかということを主軸とした、第 36 回佐野大会の実施報告と、今後の展望について報告するものとする。さらに、今後数年程度の間、市政をはじめとする政策や世情が、本会議とどのような形で連動しながら変容していくのか、特に社会教育的観点からその過程を見守り、報告していきたいと考えている。

注記

注1) 甲府市ホームページを参照した。

注2) SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略で、世界が2030年までに達成すべき、17に亘る環境や開発に関する国際目標のことである。

引用・参考文献

学校法人佐野日本大学学園（2014）創立 50 周年記念誌：久遠の理想．
金沢市人権女性政策推進課（2015）『『日本女性会議を金沢でひらく会』の活動がはじまる』，るうぶ，34.
金沢市人権女性政策推進課（2016）「平成 30 年度日本女性会議 金沢開催が決定」，るうぶ，35.
金沢市人権女性政策推進課（2016）「日本女性会議 2018 in 金沢実行委員会が発足」「日本女性会議 2016 秋田に参加」「シンボルマーク募集」，るうぶ，37.
金沢市人権女性政策推進課（2017）「第 1 回日本女性会議 2018 in 金沢実行委員会を開催」「日本女性会議 2018 in 金沢シンボルマーク決定」，るうぶ，38.
金沢市人権女性政策推進課（2018）『『日本女性会議 2018 in 金沢』10 月に開催』，るうぶ，40.
金沢市人権女性政策推進課（2018）『『日本女性会議 2018 in 金沢』開催しました』，

るうぶ，41.

甲府市ホームページ <http://www.city.kofu.yamanashi.jp/danjo/documents/nihonjoseikaigi.html>

札幌市ホームページ 日本女性会議 2014 札幌 <http://www.city.sapporo.jp/shimin/danjo/japan/j-w-c.html>

内閣府男女共同参画局（2013）配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 http://www.gender.go.jp/about_danjo/law/no_violence/dvhou.html

内閣府男女共同参画局（2017）ひとりひとりが幸せな社会実現のために：男女共同参画社会の実現を目指して 平成 29 年版データ．
日本女性会議 2015 倉敷実行委員会（2016）日本女性会議 2015 倉敷大会報告書．
日本女性会議 2016 秋田市実行委員会（2017）日本女性会議 2016 秋田大会報告書．
日本女性会議 2017 苫小牧市実行委員会（2018）日本女性会議 2017 苫小牧大会報告書．
日本女性会議 2018 in 金沢実行委員会（2018）日本女性会議 2018 in 金沢大会プログラム．
日本女性会議 2018 in 金沢 公式ホームページ <http://jwc2018kanazawa.jp/theme/>

吉田龍太郎（2015）日本女性会議における男女共同参画政策論：ジェンダー平等意識と再帰的ジェンダー秩序の相克．政治社会論叢，3,21-33.

謝辞

金沢ならではのおもてなしをしてくださった金沢大会関係者各位に心より御礼申し上げます。

また、金沢大会における申込者数等のデータ（最終確定前）及び過去の大会資料をご提供くださった佐野市市民生活部人権・男女共同参画課男女共同参画係各位に、併せて心より御礼申し上げます。

